



ひやくようばこ なん
百葉箱は何のためにあるの

きしょうかんそく しょう
気象観測に使用するため

ひやくようばこ きしょうかんそく やがい はこ なか きおん しつど はか かくしゅ
百葉箱は、気象観測のために野外におかれた箱で、中には気温や湿度を計るための各種
おんどけい かんしつけい い
の温度計や、乾湿計などが入れてあります。

にっしゃ ほうしゃねつ
日射や放射熱をさけて

きおん しつど はか ひやくようばこ くふう
気温や湿度を正しく計るために、百葉箱にはいろいろな工夫がしてあります。

- 1) 風通しや水はけがよく、まわりの木や家にえいきょうされない、平らな土地においてある。
- 2) 風通しをよくするため、四方の壁が二重のよろい戸にしてある。
- 3) 日射のえいきょうを防ぐため、白いペンキが箱の外側にぬってある。
- 4) 地面からの放射熱を防ぐため、しばふの上で、箱の底が地面から約1メートルの高さにしてある。
- 5) 温度計や湿度計などは、地表から約1.5メートルのところにおいてある。

(監修 村山貢司)

●百葉箱のしくみ

